

令和5年産 麦作情報 第3号

宮城県亘理農業改良普及センター 令和5年3月20日発行
電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143
ホームページ<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

1 麦生育状況

地区名	品種	播種時期		2月10日調査 (2/13実施)		3月20日調査 (3/17実施)			予測	
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂長 (mm)	減数分裂期 (幼穂長が20~30mm の頃)	出穂期 (全茎数の40~50% が出穂した日)
名取市 本郷	シュンライ	10月26日	本年値	8.7	677	16.1	783	4.6	4月11日 頃	4月20日 頃
			平年比、差	126%	193%	128%	143%	2.8		
名取市 植松	シュンライ	10月26日	本年値	10.1	2,090	17.1	1,464	4.3	4月12日 頃	4月20日 頃
			平年比、差	136%	350%	130%	161%	2.2		
名取市 下増田	シュンライ	10月26日	本年値	10.1	1,480	17.2	1,272	5.4	4月9日 頃	4月18日 頃
			平年比、差	141%	293%	143%	197%	3.3		
名取市 愛島	シュンライ	10月26日	本年値	6.9	923	14.3	1,087	4.3	4月12日 頃	4月20日 頃
			平年比、差	-	-	-	-	-		
平均			本年値	9.0	1,234	16.2	1,152	4.7	4月11日 頃	4月20日 頃
			平年比、差	134%	266%	134%	167%	2.7		

※減数分裂期及び出穂期の予測は「麦生育予測シートVer. 4.0」（名取アメダスデータ）の予測日

- ・茎数は、やや過剰です。（シュンライで、子実収量 500kg/10a を獲得するための穂数は、およそ 400 本/m²です）
- ・幼穂長は、約 5mm 幼穂形成期（幼穂長 2~3mm）に達しており、生育ステージ予測では、前年産より約 10 日早まるとみられます。

2 今後の栽培管理（大麦の追肥）

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm) (3月中旬~4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm) (4月中旬~4月下旬)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	-
10月中旬に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない
11月以降に 播種したほ場 (生育量が少ない)	窒素成分 1.5~2kg/10a (硫安 7.5~10kg/10a)	窒素成分 1.5~2kg/10a (硫安 7.5~10kg/10a)	

- ・追肥のタイミングが遅れると、品質低下（硬質粒の発生）のリスクが高まります。

<参考>シラネコムギの幼穂長（3月17日調査）は、1.2mmでした。
幼穂形成期 3月20日，減数分裂期予測 4月22日，出穂期予測 5月3日

播種が遅く茎数が少ないので，追肥の目安は窒素成分で
幼穂形成期に 2kg/10a，減数分裂期に 2.5kg/10a，穂揃期に 2.5kg/10a